

がん研究奨励賞 (林原・山田賞)



宮原 孝治

略 歴

昭和54年3月5日生
平成16年3月 岡山大学医学部卒業
平成16年4月 広島市立広島市民病院初期臨床研修医
平成18年4月 広島市立広島市民病院内科勤務
平成19年4月 香川県立中央病院内科勤務
平成21年4月 岡山大学病院消化器・肝臓内科勤務
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 博士課程入学
平成25年3月 同校修了
平成25年4月 岡山大学医学部客員研究員（消化器・肝臓内科学）
現在に至る

研究論文内容要旨

切除不能進行肝細胞癌への治療として、近年、分子標的薬であるソラフェニブが広く用いられるようになった。我々は、過去にソラフェニブの効果予測因子として血管新生関連サイトカインの有用性を報告しているが（Miyahara K. J Gastroenterol Hepatol. 2011; 26: 1604-11）、これは少数例での検討であった。本受賞論文では、更に同サイトカインの有用性を、他大学を含めた多施設共同研究という形で、多数例で検証したものである。先の論文で挙げられた8項目のサイトカイン（Angiopoietin-2, follistatin, G-CSF, HGF, leptin, PDGF-BB, PECAM-1/CD31, VEGF）をMultiplex ELISAを用いて同時に測定し、これらが高発現する症例ではソラフェニブ治療における無増悪生存期間や全生存期間が不良であることを明らかとした。これは過去の我々の報告を裏付けるものであり、これにより結果の普遍性が証明された。また、単一のマーカーとしては、Angiopoietin-2が治療効果および生命予後不良の独立したリスク因子であることも明らかとした。